

# 大豆栽培情報（ハスモンヨトウ防除）

令和7年8月15日  
福岡大城農業協同組合  
南筑後・久留米普及指導センター

ハスモンヨトウの食害による白変葉や、分散前の幼虫が見え始めています。特に本年は播種時期が早く、生育旺盛な大豆では、被害葉が見つかりにくいいため注意が必要です。ハスモンヨトウの食害を受けると、収量低下の要因となりますので、ほ場での発生状況を確認して防除を行ってください。

現在のところ、マメハンミョウの発生は少なくなっています。しかし、突発的・局所的に発生し、急激に葉を食害するため、ほ場を見回って被害が確認され次第、早急にスミチオン乳剤で防除を行いましょう。

## 【1回目の防除/8月下旬・幼虫が群棲した白変葉発生時】（令和7年8月14日時点）

防除体系	薬剤名	散布濃度	散布液量 /10a	使用回数	収穫前 日数
液剤 /乗用管理機	ノーモルト乳剤	2,000倍	100L	2回以内	14日前 まで
無人航空機		8~16倍	0.8L		



マメハンミョウ



●一見、きれいな大豆でも、中の方の葉裏にはハスモンヨトウが群棲している場合があります。上の葉に隠れて見つけにくいいため、ほ場内で株をかき分けて、確認をしてください!!

9月上中旬の基幹防除（ハスモンヨトウ・カメムシ類・紫斑病対策の3種混合）は、大豆開花後20日頃が防除の適期で、後日、情報発信予定です。本年はカメムシ類の発生量が多く、すでに大豆ほ場への飛来も確認されています。大豆への吸汁被害防止に効果的な『開花後20日と40日の2回防除』を徹底して、青立ち株発生低減に努めてください。

### ☆農作業時の熱中症に注意しましょう!!

- 日中の気温の高い時間を避け、涼しい時間帯に作業
  - こまめな休息と水分補給
- 【農薬の安全使用上の注意】①散布前に必ず農薬ラベルの登録内容等を確認！  
②散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策を徹底！ ③散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄！ ④防除履歴の正確な記帳！